

2010年11月20日

「第5回 自立・自治のための信州地域づくりフォーラム」の概要

長野県下の小さくとも輝ける町、村づくりを行っている長などで構成している「自立・自治のための信州地域づくりフォーラム」が11月20日、松本大学で開かれた。その概要を紹介する。

1. 基調講演 「地域主権改革・理想と現実」 立命館大教授 加茂 利男

- ・大学の教え子（岐阜県の町議）が尋ねてきた。家庭・地域・町財政が壊れ、「こわい」と言う。今日の日本を象徴している。
- ・日本国憲法で主権は国民にあるとされており、「地域が主権をもつ」ことはあり得ない。
- ・民主党の「地域主権」、この言葉のもとに行われる「義務付け・枠付け」の廃止＝地域のはことは地域で決めてください。→財政的裏付けがなければ、サービス水準の切り下げ
- ・欧州の「義務付け・枠付け」の廃止は実験的に行い、点検しながら福祉水準の維持に努めている。
- ・特定補助金（法令により使い方が決められている）の廃止 → 一括交付金＝地域でどう使っても良い → 力の強い団体が交付金を採ってしまう。 → 新しい紛争
- ・今、日本各地で新しい地域づくりが始まっている。
例：山中温泉（修景、商品の品揃い、格調ある温泉）、愛媛県内子町（歴史的町並みの保存、内子座の保存、エコ・ツーリズム、ケータイによる市場調査と出荷による収入増）、高知県上勝町（資源の商品化→住民が知恵を出し合い町づくり→日本を変える力
- ・地域自治区は法律で制度化できる。やり方しだいで小さな地域コミュニティとなる可能性あり、頑張る人を増やすことが大切。

2. 分科会 「合併した地域での地域づくり」

<報告>

○ 木曽町

- ・合併時に次の3提案（①支所を中心とした昔の村、②権限を支所に、③情報公開の徹底）をした。町づくり条例、地域自治組織はうまくいったが、①、②については自分が止めると心配。
- ・町民、議員など全ての人が提案するようになったが、激しい論争がなくなった。誤りを犯す可能性あり。

○ 長野市松代の「信州松代まるごと博物館構想」の推進

- ・s 41年長野市に合併、埋没した10年となる。合併しなかった商工会が中心となり松代インター誘致運動成功が自信、住民が本気になってやればできる。→H2：若者による人力車
- ・H12：行政が住民（100人）の参画を得て、松代地区中心市街地活性化計画「信州まるご

と博物館構想」→H13：NPO法人「夢空間松代の町と心を育てる会（世代を超えたネットワーク組織）」

- ・松代探訪による魅力発見：「武家屋敷のお庭拝見」イベント、「お寺めぐり」、「町屋街なみ路地めぐり」→住民意識の大変換＝「松代は素晴らしい」の誇り
- ・「街並ウォッチング」から町家保存運動→H14：国交省「街並み環境整備事業」
- ・町の歴史を学ぶ「松代学講座」の開催→女流画家「恩田緑陰」、松井須磨子→先人達の地元への愛、努力
- ・まち歩きルートの開発によるガイドブック発刊→まち歩きの普及
- ・歴史的建造物の国の登録有形文化財の指定
- ・次世代育成：散策会への子ども参加、子ども向けガイドブック
- ・web 松代テレビ局 (<http://matv.moo.jp>) による情報発信
- ・神奈川大学との連携による町づくり研究所

長野市鬼無里、佐久市望月

- ・合併により地域の元気がなくなった。嘆くのは止めて立ちあがろう。

< 討論 >

- ・大町市美麻地区：合併したが良くならない。どうしたら良いか。→NPOの立ち上げを
- ・町づくりは2人から始まる。町民の自主的な盛り上がりないと成功しない。